

## 平成24年度補正予算（第1号）

○事業名 自動化書庫の整備  
中央図書館

## ○設備の概要

自動化書庫とは、図書を収納したコンテナを機械的に自動出納する、極めて高い収容力をもつ無人収納庫である。

<学習環境の改善> 80万冊以上が収納可能であり、各部局研究室の図書資料が図書館に収納される。これにより、学生の学習スペース拡大が可能となり大学全体の学習環境が改善される。

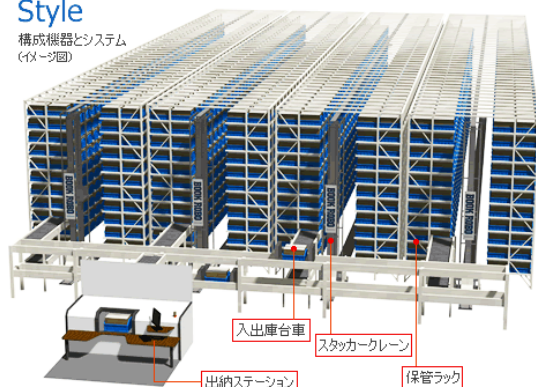
<社会貢献> 広島大学に所蔵するわが国有数の学術資料が、図書館から国民に広く公開提供されることにより本学の社会貢献度が高まる。

<安全・効率的な管理> 利用者端末からの指示で機械が自動的に出納するため、迅速かつ効率的な管理が可能である。また、安全対策として、震度5相当の地震時には自動停止しコンテナの落下を防ぐ安全装置を有している。

## ○設備の構成 自動化書庫システムの構成及び運用概念図

## Style

構成機器とシステム  
(イメージ)

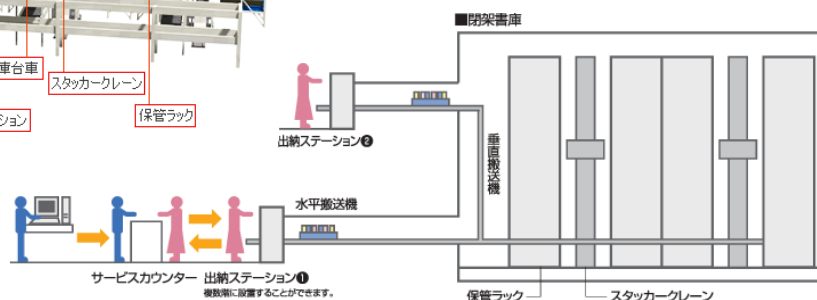


保管ラック（両側）

スタッカークレーン（中央）



## 出納ステーション



## ①利用者サービスの迅速化

目的の図書を正確に、2～3分程度で利用者に提供できる

## ②作業負荷の省効果とスペースセービング効果

書庫内での出納や再配架作業が一切無く、高密度保管可能

## ③優れた耐震性（安全対策）

震度7以上の耐え、震度5以上時には自動停止機能

本件に係る照会先： 富永 図書館長 082-424-6210

## ○設備の必要性・重要性, 期待される効果

### 【必要性・重要性】

広島大学は330万冊を超える蔵書を有しているが、図書館には5館（中央・東・西・霞・東千田）合わせても255万冊分の収容力しか備わっておらず、研究室資料の返却や図書館資料再配置による共同利用の促進が極めて困難な状態となっている。これに対し中央図書館書庫収容力増強（固定書架を電動集密書架に更新）3期計画を策定し、平成19年度に第1期（12万冊増）を実施したが、近年教員の退職・転出や施設改修等に伴う研究室資料返却が激増しており、今後第2・3期計画（21万冊増）を実施しても10年以内に満杯となる見通しが明らかになっていた。また、次世代図書館のあり方検討のなかで、保存資料は中央図書館に集中し他4館はサービスフロントを主とすることが利用上も設備投資上も望ましいとされた。21年度末の霞図書館閲覧室拡張改修を機にこの機能集約に着手し、1994年以前の雑誌バックナンバー約7万冊が中央図書館へ移管されている。

以上を踏まえ、集密書庫より格段に収容効率の高い自動書庫（80万冊以上収容）を整備することにより、慢性的な収容力不足を解消するとともに、全学的な資料保存機能を整備するものである。

### 【期待される効果】

自動化書庫により図書館は、各キャンパス・地区それぞれにおける学習・研究活動に応じた資料や閲覧スペースを提供することともに、全学の資料保存アーカイブ及びリサイクルセンターとして機能することができる。

自動化書庫により人文・社会科学系分野においては今後も重要な研究基盤である図書資料の他、発掘資料や文化的保存資料などを体系的効率的に保管し利用に供することによる研究活動の活性化が期待される。

自動化書庫により、各部局の研究室にある返却希望図書が返却されることにより、部局の学習スペースの拡大が可能となり、大学全体の研究学習環境改善に向けた整備が大きく進展することとなる。